

2025 年度 授業計画(シラバス)

学 科	鍼灸スポーツ学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	実習
科 目 名	東医臨床実技Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	3年生		学期及び曜時限	後期	教室名	5階実技室
担 当 教 員	花原 容成	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
この授業を通じて応用臨床の鍼術・灸術を学ぶ。 経絡経穴の穴性を学び、これまでに学習した技術についてまとめ、使いこなせるようにする。						
《成績評価の方法と基準》						
1. 定期試験:100 %						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
教科書:『新版 経絡経穴概論 第2版』（医道の日本社）						
《授業外における学習方法》						
予習:講義予定部分の教科書の確認。 復習:講義箇所に関する教科書の熟読。						
《履修に当たっての留意点》						
卒業後、患者様を診る上で、最も大切なことは「安全」です。鍼灸治療も方法を誤れば重大な問題に発展します。鍼術では特に「気胸」、灸術では「熱傷(やけど)」が問題です。何事も基本が大事ですので、安全な技術が修得されているかもチェックしていきます。						
授業の方法		内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第1回	実習形式	授業を通じての到達目標	特殊鍼灸法について概説できる。			シラバスの確認。講義予定部分の教科書の確認。
		各コマにおける授業予定	概論(特殊鍼灸法の種類・方法等の紹介)			
第2回	実習形式	授業を通じての到達目標	取穴手技 指切法、按压法の習得。			講義予定部分の教科書の確認。イメージトレーニング。
		各コマにおける授業予定	取穴手技 指切法、按压法			
第3回	実習形式	授業を通じての到達目標	速刺法、緩慢捻鍼法の習得。			講義予定部分の教科書の確認。イメージトレーニング。
		各コマにおける授業予定	速刺法、緩慢捻鍼法			
第4回	実習形式	授業を通じての到達目標	候気法・催気法の習得。			講義予定部分の教科書の確認。イメージトレーニング。
		各コマにおける授業予定	候気法・催気法			
第5回	実習形式	授業を通じての到達目標	捜法、弾弩・敲震の習得。			講義予定部分の教科書の確認。イメージトレーニング。
		各コマにおける授業予定	捜法、弾弩・敲震			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	実習形式	授業を通じての到達目標	循按・移位の習得。		講義予定部分の教科書の確認。イメージトレーニング。
		各コマにおける授業予定	循按・移位		
第7回	実習形式	授業を通じての到達目標	行気法 提挿、搓捻、開閉、飛法の習得。		講義予定部分の教科書の確認。イメージトレーニング。
		各コマにおける授業予定	行気法 提挿、搓捻、開閉、飛法		
第8回	実習形式	授業を通じての到達目標	守気法 推弩、提拉の習得。		講義予定部分の教科書の確認。イメージトレーニング。
		各コマにおける授業予定	守気法 推弩、提拉		
第9回	実習形式	授業を通じての到達目標	迎随補瀉法の習得。		講義予定部分の教科書の確認。イメージトレーニング。
		各コマにおける授業予定	迎随補瀉法		
第10回	実習形式	授業を通じての到達目標	呼吸補瀉法の習得。		講義予定部分の教科書の確認。イメージトレーニング。
		各コマにおける授業予定	呼吸補瀉法		
第11回	実習形式	授業を通じての到達目標	徐疾補瀉法の習得。		講義予定部分の教科書の確認。イメージトレーニング。
		各コマにおける授業予定	徐疾補瀉法		
第12回	実習形式	授業を通じての到達目標	捻転補瀉法の習得。		講義予定部分の教科書の確認。イメージトレーニング。
		各コマにおける授業予定	捻転補瀉法		
第13回	実習形式	授業を通じての到達目標	栄衛補瀉法の習得。		講義予定部分の教科書の確認。イメージトレーニング。
		各コマにおける授業予定	栄衛補瀉法		
第14回	実習形式	授業を通じての到達目標	虚実補瀉法の習得。		講義予定部分の教科書の確認。イメージトレーニング。
		各コマにおける授業予定	虚実補瀉法		
第15回	実習形式	授業を通じての到達目標	習得した特殊鍼灸法を使いこなすことが出来る。		講義予定部分の教科書の確認。イメージトレーニング。
		各コマにおける授業予定	総括		